

令和5年度 肥料価格高騰対策事業(国)

中間報告・実施状況報告の手引き

令和5年8月

山口県地域農業戦略推進協議会

山口県農業振興課

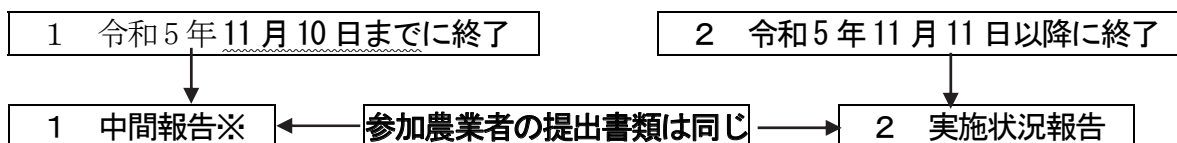
# 令和5年度 肥料価格高騰対策事業（国）

## 中間報告・実施状況報告の手引き 目次

	ページ
I 作成書類区分	1
II 作成書類一覧	1
III 取組メニュー別の書類の作成例	2
1 主体別（農業者、取組実施者別）作成書類	
ア 土壌診断による施肥設計	3
イ 生育診断による施肥設計	4
エ 堆肥の利用	5
キ 有機質肥料（指定混合肥料等を含む）の利用	6
ク 低成分肥料（単肥配合を含む）の利用	7
シ 局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用	8
2 参考事例	
(1) 農業者が作成する書類の参考事例	
ア 土壌診断による施肥設計 + エ 堆肥の利用 の場合	9
イ 生育診断による施肥設計 + シ 局所施肥の利用 の場合	14
キ 有機質肥料の利用 + ク 低成分肥料の利用 の場合	20
(2) 取組実施者が作成する書類の参考事例	
① 中間報告書	25
② 実施状況報告書	28
③ 様式集	35
IV 化学肥料低減取組メニュー別 取組例 取組を実施した証拠書類	44

## 令和5年度 肥料価格高騰対策事業（国） 中間報告・実施状況報告の手引き

### I 作成書類区分 取組メニューの実施終了のタイミングにより報告時期が異なる



注「中間報告」で、全ての参加農業者の取組が終了した場合、取組実施者は「実施状況報告」の取りまとめ様式についても、併せて提出してください。

・業務方法書様式第11号及び別添、実施要領参考様式第13—2号

※国の事業実施要領改正に伴い、様式番号の変更があります。

- ◎ 1 中間報告：参加農業者→取組実施者（令和5年11月末）  
取組実施者→（地域協経由）→県協議会提出（令和5年12月25日）
- ◎ 2 実施状況報告：参加農業者→取組実施者（令和6年5月末）  
取組実施者→（地域協経由）→県協議会提出（令和6年6月末）

### II 作成書類一覧 **※秋肥、春肥ごとに作成（申請書類と同様）**

#### 1 中間報告 **※県協議会（事業実施主体）への提出書類（①、②、③、④、⑤、⑥）**

	作成者	書類保管者	書類の名称	様式番号等
①	取組実施者	取組実施者	取組中間報告書	業務方法書様式第12号
②	〃	〃	（取組実施状況報告書）	（業務方法書様式第11号+別添）
③	〃	〃	（参加農業者名簿）	（実施要領参考様式第13—2号）
④	参加農業者	〃	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第14号
⑤	〃	〃	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第6号
⑥	〃	〃	<u>取組メニュー別証拠書類</u>	<u>項目Ⅲで具体例を提示</u>
⑦	〃	〃	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式 ※取組の拡大・強化の場合のみ前年度の記録簿も必要
⑧	〃	〃	<u>取組メニュー</u> を実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式
⑨	〃	〃	その他申請時から変更が生じた事由等の書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など

※ 取組実施者は、参加農業者（支援対象農業者）の書類の写しを保存管理する

※ ②、③は、全ての参加農業者の取組が終了した場合は提出

## 2 実施状況報告 ※県協議会（事業実施主体）への提出書類（①、②、③、④、⑤）

	作成者	書類保管者	書類の名称	様式番号
①	取組実施者	取組実施者	取組実施状況報告書	業務方法書様式第11号+別添
②	〃	〃	参加農業者名簿	実施要領参考様式第13-2号
③	参加農業者	〃	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第14号
④	〃	〃	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第6号
⑤	〃	〃	取組メニュー別証拠書類	<b>項目Ⅲで具体例を提示</b>
⑥	〃	〃	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式 ※取組の拡大・強化の場合のみ前年度の記録簿も必要
⑦	〃	〃	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式
⑧	〃	〃	その他申請時から変更が生じた書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など

※ 取組実施者は、参加農業者の書類の写しを保存管理する

### Ⅲ 書類の作成例

【取組メニューの一覧】.

	取組メニュー名
ア	土壌診断による施肥設計
イ	生育診断による施肥設計
ウ	地域の低投入型の施肥設計の導入
エ	堆肥の利用
オ	汚泥肥料の利用（下水汚泥 等）
カ	食品残渣など国内資源の利用（エとオ以外）
キ	有機質肥料（指定混合肥料等を含む）の利用
ク	緑肥作物の利用
ケ	肥料施用量の少ない品種の利用
コ	低成分肥料（単肥配合を含む）の利用
サ	可変施肥機の利用（ドローンの活用等も含む）
シ	局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用
ス	育苗箱（ポット苗）施肥の利用
セ	化学肥料の使用量及びコスト削減の観点から施肥量・肥料銘柄の見直し
ソ	地域特認技術（該当なし）

以降では、主な取組メニューであるア、イ、エ、キ、コ、シについて具体例を示す。

# 1 主体別（農業者、取組実施者別）作成書類

## ア：土壌診断による施肥設計

### 【参加農業者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	土壌診断結果、及び診断結果に基づく施肥設計書の写し	任意の様式	※診断ほ場、診断日、診断者、対象作物等が分かるもの
④	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式	※取組の拡大・強化の場合は前年度の記録簿も必要
⑤	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑥	その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類	任意の様式	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など

### 【取組実施者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	取組中間報告書 (取組実施状況報告書等)	業務方法書様式第 12 号 (業務方法書様式第 11 号、別添、 実施要領参考様式第 13—2 号)	} 県協議会へ提出 ※写しを取組実施者で保管
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	土壌診断結果、及び診断結果に基づく施肥設計書の写し	任意の様式 ※診断ほ場、診断日、診断者、対象作物等が分かるもの	} 各参加農業者の作成書類の 写しをとりまとめ 取組実施者で保管
④	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式 ※取組の拡大・強化の場合は前年度の記録簿も必要	
⑤	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑥	その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など	

【凡例】①・・・・・・取組実施者が作成する書類

①～⑥・・・・参加農業者が作成する書類の写し

## イ：生育診断による施肥設計

### 【参加農業者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	生育診断結果及び施肥量の改善内容等の写し	任意の様式	作物名、診断日、診断者、診断結果、施肥改善内容等が記録されたもの
④	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式	※取組の拡大・強化の場合は前年度の記録簿も必要
⑤	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑥	その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など	

### 【取組実施者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	取組中間報告書 (取組実施状況報告書等)	業務方法書様式第 12 号 (業務方法書様式第 11 号、別添、実施要領参考様式第 13—2 号)	} 県協議会へ提出 ※写しを取組実施者で保管
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	生育診断結果及び施肥量の改善内容等の写し	任意の様式 ※ 作物名、診断日、診断者、診断結果、施肥改善内容等が記録されたもの	
④	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式 ※取組の拡大・強化の場合は前年度の記録簿も必要	} 各参加農業者の作成書類の写しをとりまとめ 取組実施者で保管
⑤	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑥	その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など	

【凡例】①・・・取組実施者が作成する書類

①～⑥・・・参加農業者が作成する書類の写し

## エ：堆肥の利用

### 【参加農業者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	堆肥の購入伝票の写し	任意の様式 ※購入日が分かるもの	自給堆肥を施用する場合は、散布時の写真に代えること
④	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式	※取組の拡大・強化の場合は前年度の記録簿も必要
⑤	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑥	その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など	

### 【取組実施者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	取組中間報告書 (取組実施状況報告書等)	業務方法書様式第 12 号 (業務方法書様式第 11 号、別添、実施要領参考様式第 13—2 号)	} 県協議会へ提出 ※写しを取組実施者で保管
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	堆肥の購入伝票の写し	任意の様式 ※購入日が分かるもの	} 各参加農業者の作成書類の写しをとりまとめ 取組実施者で保管
④	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式 ※取組の拡大・強化の場合は前年度の記録簿も必要	
⑤	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑥	その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など	

【凡例】①・・・・・・取組実施者が作成する書類

①～⑥・・・・参加農業者が作成する書類の写し

## キ：有機質肥料（指定混合肥料等を含む）の利用

### 【参加農業者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	有機質肥料（指定混合肥料）の購入伝票の写し	任意の様式 ※購入日が分かるもの	有機質肥料（指定混合肥料）の購入伝票の写し
④	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式	※取組の拡大・強化の場合は前年度の記録簿も必要
⑤	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑥	その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など	

### 【取組実施者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	取組中間報告書 (取組実施状況報告書等)	業務方法書様式第 12 号 (業務方法書様式第 11 号、別添、実施要領参考様式第 13—2 号)	} 県協議会へ提出 ※写しを取組実施者で保管
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	有機質肥料（指定混合肥料）の購入伝票の写し	任意の様式 ※購入日が分かるもの	} 各参加農業者の作成書類の写しをとりまとめ 取組実施者で保管
④	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式 ※取組の拡大・強化の場合は前年度の記録簿も必要	
⑤	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑥	その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など	

【凡例】①・・・取組実施者が作成する書類

①～⑥・・・参加農業者が作成する書類の写し



コ：低成分肥料（単肥配合を含む）の利用

【参加農業者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	低成分肥料（単肥配合を含む）の購入伝票の写し	任意の様式 ※購入日が分かるもの	自ら単肥配合した場合は、配合する肥料を購入した伝票の写し
	NPK成分の比較が可能なもの	任意の様式 ※新たに取組む場合のみ	NPKの成分の総量が現行より低い複合肥料を新たに施用する場合は、これまで使用していた肥料銘柄がわかるもの
④	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式	※取組の拡大・強化の場合は前年度の記録簿も必要
⑤	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑥	その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など	

【取組実施者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	取組中間報告書 （取組実施状況報告書等）	業務方法書様式第 12 号 （業務方法書様式第 11 号、別添、実施要領参考様式第 13—2 号）	県協議会へ提出 ※写しを取組実施者で保管
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	低成分肥料（単肥配合を含む）の購入伝票の写し	任意の様式 ※購入日が分かるもの	
	NPK成分の比較が可能なもの	任意の資料 ※これまで使用していた肥料銘柄がわかるもの等	
④	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式 ※取組の拡大・強化の場合は前年度の記録簿も必要	各参加農業者の作成書類の 写しをとりまとめ 取組実施者で保管
⑤	取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑥	その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の事業取組の意向確認など	

【凡例】①・・・取組実施者が作成する書類

①～⑥・・・参加農業者が作成する書類の写し

シ：局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用

【参加農業者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	局所施肥を実施している 写真	任意の資料	
④	契約書の写し	任意の様式 ※契約日が分かるもの	リースもしくは作業委託の場合 のみ
⑤	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式	※取組の拡大・強化の場合は前年 度の記録簿も必要
⑥	取組メニューを実施した 品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑦	その他申請時から変更が生じ た事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の 事業取組の意向確認など	

【取組実施者】

	書類の名称	様式番号等	補 足
①	取組中間報告書 (取組実施状況報告書等)	業務方法書様式第 12 号 (業務方法書様式第 11 号、別添、 実施要領参考様式第 13-2 号)	} 県協議会へ提出 ※写しを取組実施者で保管
①	化学肥料低減実施報告書	実施要領参考様式第 14 号	
②	取組実績整理表	協議会長が別に定める様式第 6 号	
③	局所施肥を実施している 写真	任意の様式	
④	契約書の写し(リースもし くは作業委託の場合)	任意の様式 ※契約日が分かるもの	} 各参加農業者の作成書類の 写しをとりまとめ 取組実施者で保管
⑤	ほ場毎の施肥管理記録簿	任意の様式 ※取組の拡大・強化の場合は前年 度の記録簿も必要	
⑥	取組メニューを実施した 品目の出荷・販売伝票	任意の様式	
⑦	その他申請時から変更が生じ た事由が確認できる書類	経営継承した場合は、継承した農業者の 事業取組の意向確認など	

【凡例】①・・・取組実施者が作成する書類

①～⑦・・・参加農業者が作成する書類の写し

2 参考事例 (注) 参考事例であり、必ずしもこれによらなくても良い

(1) 農業者が作成する書類の参考事例

**ア：土壌診断による施肥設計 + エ：堆肥の利用 の場合**

第6号→第14号に変更

① 化学肥料低減実施報告書

実施要領参考様式第6号

化学肥料低減実施報告書

作付概要

作物名	作付面積 (ha)
水稻	1.8
その他	0.1
計	1.9

氏名(法人・組織名) 肥料 太郎

住所 ○○市○○町○○番地の1

電話番号 ×××-×××-××××

1. 実施した取組メニューに「○」、強化・拡大したメニューに「◎」を付してください。
2. 「今後の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	令和4年度又は令和5年度の取組	今後の取組
ア 土壌診断による施肥設計	○	○
イ 生育診断による施肥設計		
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用	○	◎
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用		
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用		
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用		
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等を含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用		
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用( )		
総取組面積	1.5ha	1.7ha

※どちらかの取組を「◎」(強化・拡大)としてください

② 取組実績整理表

協議会長が別に定める様式 第6号

取組実績整理表

農業者名	肥料 太郎
------	-------

取組メニュー実施作物栽培管理開始日 令和5年5月30日（ほ場準備も含む）

取組メニュー (注1)	作物名 (取組メニュー 実施面積) 【作付面積】	施用時期	肥料名	施用量合計 kg/10a
ア	水稻 (180a) 【180a】	～	<u>土壤診断結果(別紙)に基づく、 施肥設計を実施。</u>	
		～		
		～	※施肥管理は下記のとおり	
		～		
		～		
		～		
エ	水稻 (120a) 【180a】	○月○日～○月○日	生糞堆肥	1,500
		○月○日～○月○日	化成肥料□□	10
		○月○日～○月○日	化成肥料□□	10
		～		
		～		
		～		

取組メニューを強化・拡大した内容(注4)	堆肥の利用面積を前年度40aから120aに拡大した
----------------------	---------------------------

注1：化学肥料低減実施報告書の取組メニュー番号（ア～ソ）を記入すること。

注2：取組メニューに関係する肥料についてはアンダーラインを記入すること。

注3：緑肥作物の利用の場合は、緑肥作物名、播種日、すき込み日を記入すること。

注4：具体的な内容を記入すること。

注5：販売先に提出する生産履歴票（JA栽培管理表 等）の活用も可。

ただし、注1～3に留意すること。

ア③ 土壌診断結果の写し 及び 診断結果に基づく施肥設計書

(例示)  
水稻での分析例

ほ場の土壌診断結果及び施肥設計書

令和4年10月14日  
 診断者: ○○ ○○

氏名	作物名	ほ場所在地		pH	EC (mS/cm)	可給態窒素 (mg/100g)	腐植含量 (%)	
		大字	字 地番					
肥料 太郎	水稻	○○	△△1015	5.9	0.06	4.9	2.1	
			△△1021	6.7	0.08	5.0	1.9	
			(目標値)	5.5~6.5		10以上	4.0以上	

**【診断結果】**  
 ・腐植含量は目標の4%を下回っているので、有機物を施用して計画的な土づくりに努める必要がある。

**【診断結果による施肥設計】**  
 ・慣行の栽培層を踏まえた施肥に加え、堆肥による土づくりを行うこと。

**【摘要】** 分析機関等の分析結果や診断書の写しを添付  
 ※分析結果に基づく施肥設計が確認できるものとしてください

2

エ④ 堆肥の購入伝票の写し (事例省略: 納品書等)

④ ほ場毎の施肥管理記録簿 (例)

資材投入簿

部門細目名 久保カゴ町		識別番号 03	20a	
日付	資材名	メモ	数量	希釈倍率
5/14	ハイユウコート582	N成分7.5kg/10a	60 kg	
6/25	珪酸加里20プレミア34		20 kg	
合計			80	

部門細目名 久保大町		識別番号 04	40a	
日付	資材名	メモ	数量	希釈倍率
5/14	ハイユウコート582	N成分7.5kg/10a	120 kg	
6/25	珪酸加里20プレミア34		40 kg	
合計			160	

栽培日誌

2023 年産 0338 63 0002812-01-01

生産者コード	0000081	生産者名	阿北	住所		電話	
栽培面積		代表農家		栽培開始	2022年11月	から栽培	
品種	1:コシヒカリ 2:その他	2:コシヒカリ 3:その他	2:ひとめぼれ 3:その他	4:その他	グループ		確認印
種子購入	1:JA 2:その他	種子更新	1:あり 2:なし	種子消費	1:珪酸加里 2:自家消毒 3:温湯消毒 4:米消毒		
育苗購入	1:JA 2:その他	農人へり防除	1:出稼前1回 2:出稼後1回 3:出稼前2回 4:なし				
		種子購入量		消費入数			

1. 作業日誌 ※掲載されていないものは空白欄内に手書きで記入して下さい。

作業・管理名	作業開始日 (月/日)	作業・管理名	作業開始日 (月/日)	作業・管理名	作業開始日 (月/日)	作業・管理名	作業開始日 (月/日)
耕起		中干し耕起日		灌水管理 終了日			
播種日		中干し終了日		収穫開始日			
代かき		灌水管理 開始日					
収穫日		出稼期					

2. 施肥日誌 ※掲載されていないものは空白欄内に手書きで記入して下さい。

区分	正題日誌	実施日 (月/日)	施用量 (kg/10a)	区分	略題日誌	実施日 (月/日)	施用量 (kg/10a)
1	土づくり 牛糞堆肥			13	追肥 化成14-14-14(基)		
2	有機質肥料 アヅミン			14	追肥 珪酸21%大粒		
3	土づくり資材 カキテツ			15	追肥 珪酸資材 20%		
4	土づくり資材 粒状ミネラルG			16	複合肥料 ユーコート002(早生)		
5	土づくり資材 ミネラルG(粉)			17	複合肥料 ハイユウコートR094(早生)		
6	土づくり資材 粒状ミネラルG 20kg			18	複合肥料 ハイユウコート582		
7	土づくり資材 シリカゼライト1号			19	複合肥料 すこほ(中熟生)		
8	追肥 鶏糞堆肥			20	複合肥料 ユーコート入複合223(普通むすめ用)		
9	追肥 粒状よもぎ			21	複合肥料 くみあいGO-1(早21早生)		
10	りん酸質肥料 28倍土産堆肥			22	複合肥料 肥づくり640		
11	ケイ酸質肥料 けい酸加里プレミア34			23			
12	基肥 化成14-14-14(基)			24			

3. 農人へり防除 (以下に記入して下さい)

農薬コード	農薬名	実施日 (月/日)	散布量 (kg/10a)	農薬コード	農薬名	実施日 (月/日)	散布量 (kg/10a)
1	トレボンエアー			8			
2	スターケル液剤10			9			
3	マトリックフロアブル			10			
4				11			
5				12			
6				13			
7				14			



**イ：生育診断による施肥設計 + シ：局所施肥の利用 の場合**

① 化学肥料低減実施報告書

第6号→第14号に変更

実施要領参考様式第6号

**化学肥料低減実施報告書**

作付概要

作物名	作付面積(ha)
水稲	1.8
その他	0.1
計	1.9

氏名(法人・組織名) 肥料 太郎

住所 ○○市○○町○○番地の1

電話番号 ×××-×××-××××

1. 実施した取組メニューに「○」、強化・拡大したメニューに「◎」を付けてください。
2. 「今後の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	令和4年度又は令和5年度の取組	今後の取組
ア 土壌診断による施肥設計		
イ 生育診断による施肥設計	○	○
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用		
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用		
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用		
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用		
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等を含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用	○	◎
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用( )		
総取組面積	1.5ha	1.7ha

※どちらかの取組を「◎」(強化・拡大)としてください



② 取組実績整理表

協議会長が別に定める様式 第6号

取組実績整理表

農業者名	肥料 太郎
------	-------

取組メニュー実施作物栽培管理開始日 令和5年5月30日（ほ場準備も含む）

取組メニュー (注1)	作物名 (取組メニュー 実施面積) 【作付面積】	施用時期	肥料名	施用量合計 kg/10a
イ	水稻 (180a) 【180a】	～	<u>生育診断結果（別紙）に基づく、 施肥設計を実施。</u>	
		～		
		～	※施肥管理は下記のとおり	
		～		
		～		
		～		
シ	水稻 (120a) 【180a】	○月○日～○月○日	牛糞堆肥	1,500
		○月○日～○月○日	化成肥料□□	10
		○月○日～○月○日	化成肥料□□	10
		～		
		～		
		～		

取組メニューを強化・拡大した内容（注4）	
----------------------	--

注1：化学肥料低減実施報告書の取組メニュー番号（ア～ソ）を記入すること。

注2：取組メニューに係る肥料についてはアンダーラインを記入すること。

注3：緑肥作物の利用の場合は、緑肥作物名、播種日、すき込み日を記入すること。

注4：具体的な内容を記入すること。

注5：販売先に提出する生産履歴票（JA栽培管理表 等）の活用も可。

ただし、注1～3に留意すること。

イ③ 生育診断結果の成績書の写し

(例示) 【令和5年(2023年)産 水稻生育診断表】

生育診断日 令和5年(2023年)〇月〇日

生産者名 肥料 太郎 様

生産者住所 〇〇市〇〇町番地の1

生育診断実施者 △△ △△

圃場名(地番等)	〇〇〇〇(※emaff農地ナビでも確認可能)
品種名	コシヒカリ
SPAD(葉緑素計)or 葉色板	葉色板 〇〇(数値)
生育状況	(例)草丈:並、茎数:並~やや多

診断結果に基づく施肥量の改善内容等

葉色は基準並みであり、生育は良好であることから、追肥(穂肥)については、
施用不要と判断される。

④ ほ場毎の施肥管理記録簿

-2022年分-

**資材投入簿**

1/1

部門細目名		久保カゴ町		識別番号	03	200	
日付	資材名	メモ		数量	希釈倍率		
5/14	ハイユウコート582	N成分7.5kg/10a		60	kg		
6/25	珪酸加里20プレミア34			20	kg		
合計				80			

部門細目名		久保大町		識別番号	04	400	
日付	資材名	メモ		数量	希釈倍率		
5/14	ハイユウコート582	N成分7.5kg/10a		120	kg		
6/25	珪酸加里20プレミア34			40	kg		
合計				160			

栽培本部 【 栽培記録簿(栽培日誌) 栽培日誌

2023 年産 0338 63 0002812-01-01

生産者コード	900000081	生産者名	阿北:	住所		電話	
栽培年度	0000	代表農家		栽培開始	2022年11月	から栽培	
品種	1:コンヒカリ 2:その他	2:コンヒカリ 3:その他	3:コンヒカリ 4:その他	グループ			確認日
種子購入	1:JA 2:その他	種子処理	1:あり 2:なし	種子消毒	1:消毒済 2:白濁済 3:温湯消毒 4:未消毒		
育苗購入	1:JA 2:その他	無人ヘリ防除	1:出穂前1回 2:出穂後1回 3:出穂前後2回 4:なし				
		種子購入量	kg	市購入枚数			

1. 作業日誌 ※掲載されていないものは空白欄内に手書きで記入して下さい。

作業・管理名	作業開始日(月/日)	作業・管理名	作業開始日(月/日)	作業・管理名	作業開始日(月/日)	作業・管理名	作業開始日(月/日)
耕起		中干し開始日		灌水管理 終了日			
播種日		中干し終了日		収穫開始日			
代かき		灌水管理 開始日					
移植日		出穂期					

2. 施肥記録 ※掲載されていないものは空白欄内に手書きで記入して下さい。

区分	肥料名称	実施月日(月/日)	数量(kg)	区分	肥料名称	実施月日(月/日)	数量(kg)
1	土づくり 牛糞堆肥			13	追肥	化成14-14-14(速)	
2	有機質肥料 アヅミン			14	葉茶黄肥料	珪酸21%大粒	
3	土づくり資材 カキヤツ			15	窒素資肥料	石灰窒素 40% 20%	
4	土づくり資材 粒状ミネラルG			16	複合肥料	ユニロ 1002(早生)	
5	土づくり資材 ミネラルG(粉)			17	複合肥料	ハイセラコートH004(早生)	
6	土づくり資材 粒状ミネリッチ 20kg			18	複合肥料	ハイユウコート582	
7	土づくり資材 シリカサポート1号			19	複合肥料	ナニニ(中晩生)	
8	画肥 農作業機油			20	複合肥料	ユウコート入複合22(おぬむすめ用)	
9	画肥 粒状よりりん			21	複合肥料	くみあいGO一帯321早生	
10	りん酸資肥料 25倍土壌補強			22	複合肥料	秋づくり640	
11	ケイ酸資肥料 けい酸加里プレミア34						
12	画肥 化成14-14-14(速)						

3. 無人ヘリ防除簿 (以下に記入して下さい)

農薬コード	農薬名	実施月日(月/日)	散布量又は1畝あたり処理量	農薬コード	農薬名	実施月日(月/日)	散布量又は1畝あたり処理量
1	トレボンエアー						
2	スターフル液剤10						
3	マトリックフロアブル						

⑤ 取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票

領収証 (控) 入金第 様 No.

★ 4

内訳  
現金 入金 山口県産米 とし  
小切手 8/24年 11月 1日 上記正に領収いたしました  
手形

消費税率等(%) 山口県 〇〇〇〇

423 9708

検査格付結果通知票 伝票番号 120026

検査請求年月日: 04年09月19日	検査年月日: 04年09月21日	年産: 4	検査請求区分: 第3袋
生産者: 山口市		2030-1-2380-0170 0121372213	
流通区分: JA山口米	種類: 水稲うるち玄米	出荷業者等: JA山口県	
産地: 山口	検査場所: 1	市町村・篇落: 山口市	
検査請求数量:		包装・量目:	
伝票区分: 0 通常	検査方法: 1 試B	手続区分: 0 手続なし	
検査区分: 0 第3袋	引換区分: 0 なし	表示区分: 0 通常10%以下	
地区区分: 0 なし	買入区分: 0 一般分	品質区分: 00 通常	
共託区分: 0 なし	区分2: 0 なし	区分3: 0 なし	
区分4: 0 なし	区分5: 0 なし	区分6: 000 なし	
区分7: 000 なし			

銘柄	等級	数量	単価	金額	格付理由	水分
山口県産ひとめぼれ	1等					
計					内消費税(%)	
				検査料	消費税(10%)	税込

令和 04年 09月 21日 登録検査機関名: 山口県農業協同組合 山口県 4.9.21  
検査員名: 藤井 卓 藤井 卓

備考  
世帯契約金を差引いた額を入力し、別途検査手数料及び出荷契約金余利を引き落とし致します。

シ③ 局所施肥を実施している写真

作業状況の写真などを添付



シ③ 契約書の写し ※局所施肥をリース又は作業委託している場合のみ

(事例省略)

**キ：有機質肥料の利用 + コ：低成分肥料の利用 の場合**

① 化学肥料低減実施報告書

第6号→第14号に変更

実施要領参考様式第6号

**化学肥料低減実施報告書**

作付概要

作物名	作付面積 (ha)
水稲	1.8
その他	0.1
計	1.9

氏名(法人・組織名) 肥料 太郎

住所 ○○市○○町○○番地の1

電話番号 ×××-×××-××××

1. 実施した取組メニューに「○」、強化・拡大したメニューに「◎」を付してください。
2. 「今後の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	令和4年度又は 令和5年度の取組	今後の取組
ア 土壌診断による施肥設計		
イ 生育診断による施肥設計		
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用		
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用	○	◎
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用		
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用	○	○
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等を含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、 灌注施肥等)の利用		
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの 施肥量・肥料銘柄の見直し (ア～スに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用( )		
総取組面積	1.5ha	1.7ha

※どちらかの取組を「◎」(強化・拡大)としてください

② 取組実績整理表

協議会長が別に定める様式 第6号

取組実績整理表

農業者名	肥料 太郎
------	-------

取組メニュー実施作物栽培管理開始日 令和5年5月30日（ほ場準備も含む）

取組メニュー （注1）	作物名 （取組メニュー 実施面積） 【作付面積】	施用時期	肥料名	施用量合計 kg/10 a
キ	水稲 (180 a) 【180 a】	○月○日～○月○日	<u>▲▲有機S</u>	40
		○月○日～○月○日	化成肥料□□	10
		○月○日～○月○日	化成肥料□□	10
		～		
		～		
		～		
コ	水稲 (180 a) 【180 a】	○月○日～○月○日	<u>低成分肥料 ■■■</u>	30
		○月○日～○月○日	化成肥料□□	10
		○月○日～○月○日	化成肥料□□	10
		～		
		～		
		～		

取組メニューを強化・拡大した内容（注4）	
----------------------	--

注1：化学肥料低減実施報告書の取組メニュー番号（ア～ツ）を記入すること。

注2：取組メニューに関係する肥料についてはアンダーラインを記入すること。

注3：緑肥作物の利用の場合は、緑肥作物名、播種日、すき込み日を記入すること。

注4：具体的な内容を記入すること。

注5：販売先に提出する生産履歴票（JA栽培管理表 等）の活用も可。

ただし、注1～3に留意すること。

キ③ 有機質肥料の購入伝票の写し

(事例省略)

コ③ 低成分肥料の購入伝票の写し

(事例省略)

コ③これまで使用していた肥料銘柄が分かるもの (※新たに取組む場合のみ)

◆ 購入伝票や写真など  
(これまで使用していた肥料)



(今回使用した低成分肥料)





④ ほ場毎の施肥管理記録簿

-2022年分-	<b>資材投入簿</b>	1/1		
部門細目名	久保カゴ町	識別番号	03	20a
日付	資材名	メモ	数量	希釈倍率
5/14	ハイユウコート582	N成分7.5kg/10a	60 kg	
6/25	珪酸加里20プレミア34		20 kg	
合計			80	
部門細目名	久保大町	識別番号	04	40a
日付	資材名	メモ	数量	希釈倍率
5/14	ハイユウコート582	N成分7.5kg/10a	120 kg	
6/25	珪酸加里20プレミア34		40 kg	
合計			160	

流通本部 【栽培本部】栽培日誌

2023年産 0338 63 0002812-01-01

生産者コード	900000081	生産者名	阿北	作物		場所	
栽培年度	2023	代表農家		栽培開始	2022	年	11月
品種	1:コンヒカリ 2:その他	2:コンヒカリ 3:その他の他	3:あとのほれ 4:きめ心すめ	グループ		確認員	
種子購入	1:JA 2:その他	種子更新	1:あり 2:なし	種子消毒	1:消毒済 2:自家採種 3:混		
育苗購入	1:JA 2:その他	無人へり防除	1:出穂前1回 2:出穂後1回 3:出穂前後2回 4:なし				
		種子購入量	kg	市購入枚数	枚		

1. 作業日誌 ※記載されていないものは空白欄内に手書きで記入して下さい。

作業・管理名	作業開始日(月/日)	作業・管理名	作業開始日(月/日)	作業・管理名	作業開始日(月/日)	作業・管理名	作業開始日(月/日)
耕起		中干し開始日		灌水管理 終了日			
播種日		中干し終了日		収穫開始日			
代かき		灌水管理 開始日					
移植日		出穂期					

2. 施肥記録 ※記載されていないものは空白欄内に手書きで記入して下さい。

区分	肥料名称	実施月日(月/日)	肥料量又は 1畝当り又は10a当り	区分	肥料名称	実施月日(月/日)	肥料量又は 1畝当り又は10a当り
1	土づくり 牛糞堆肥			15	追肥 化成14-14-14(液)		
2	有機資肥料 アゾフェン			16	燐素資肥料 硫酸21%水粒		
3	土づくり資材 コキテツ			17	要素資肥料 石灰資素 粒 20%		
4	土づくり資材 粒状ミネラルG			18	複合肥料 ユーコート002(早生)		
5	土づくり資材 ミネラルG(粉)			19	複合肥料 ハイユウコート-R004(早生)		
6	土づくり資材 粒状ミネリッチ 20kg			20	複合肥料 ハイユ コー582		
7	土づくり資材 シリカサポート1号			21	複合肥料 すこね(中晩生)		
8	基肥 葉作基肥			22	複合肥料 ユーコート入複合222(きめ心すめ)		
9	基肥 粒状よりん			23	複合肥料 くみおい100-1号21早生		
10	りん酸資肥料 28倍土重堆肥			24	複合肥料 粒づくり64C		
11	ケイ酸資肥料 けい酸加里プレミア34						
12	基肥 化成14-14-14(液)						

3. 無人へり防除簿 (以下に記入して下さい)

農薬コード	農薬名	実施月日(月/日)	散布量又は 1畝当り又は10a当り	農薬コード	農薬名	実施月日(月/日)	散布量又は 1畝当り又は10a当り
1	17541 トレボンエアー			5			
2	21259 スタークル液剤10			6			
3	20399 マトリックフロアブル			7			
4				8			
5				9			
6				10			
7				11			
				12			
				13			
				14			

⑤ 取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票


領収証 (控) 入金第 様 No.

★ 4

内訳	包	山口県産米 2L2
現金	入金日	R4年 月 日 上記正に領収いたしました
小切手		
手形		
消費税額等(%)	山口県	0000

コケヨウケ09

**検査格付結果通知票** 伝票番号 120025 ✓

検査請求年月日: 04年09月19日	検査年月日: 04年09月21日	年産: 4	検査請求区分: 第3条																												
生産者: <span style="font-size: 1.2em;">/</span>		2030-1-2380-0170 0121572213																													
山口市																															
流通区分: JA山口米 ✓	種類: 水稲うるち玄米 ✓	出荷業者等: JA山口県																													
産地: 山口	検査場所: <span style="font-size: 1.2em;">/</span>	市町村・産地: 山口市																													
検査請求数量:		包装・量目:																													
伝票区分: 0 通常	検査方法: 1 試吃 ✓	手続区分: 0 手続なし																													
検査区分: 0 第3条	引取区分: 0 なし	表示区分: 0 通常1%以下																													
地区区分: 0 なし	買入区分: 0 一般分	品質区分: 00 通常 ✓																													
共粒区分: 0 なし	区分2: 0 なし	区分3: 0 なし																													
区分4: 0 なし	区分5: 0 なし	区分6: 000 なし																													
区分7: 000 なし																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>銘柄</th> <th>等級</th> <th>数量</th> <th>単価</th> <th>金額</th> <th>格付理由</th> <th>水分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山口県産ひとめぼれ ✓</td> <td>1等 ✓</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">計</td> <td></td> <td>内消費税(0%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>検査費</td> <td>消費税(10%)</td> <td>税込</td> </tr> </tbody> </table>				銘柄	等級	数量	単価	金額	格付理由	水分	山口県産ひとめぼれ ✓	1等 ✓						計					内消費税(0%)						検査費	消費税(10%)	税込
銘柄	等級	数量	単価	金額	格付理由	水分																									
山口県産ひとめぼれ ✓	1等 ✓																														
計					内消費税(0%)																										
				検査費	消費税(10%)	税込																									
令和 04年 09月 21日																															
登録検査機関名: 山口県農産協同組合																															
検査員名: 藤井卓																															
備考																															
<p>出荷契約金額差引いた額を入金し、別途検査手数料及び出荷契約金額割を引当額とします。</p>																															

(2) 取組実施者が作成する書類の参考事例  
① 取組中間報告書（作成者：取組実施者）

(業務方法書 様式第12号)

記入例

(番号)

令和5年12月 日

山口県地域農業戦略推進協議会  
会長 平岡 武 様

所在地 山口県〇〇市〇〇町〇〇番地  
取組実施者名 〇〇商店 (〇〇グループ)  
代表者氏名 □□ □□

令和5年度肥料価格高騰対策事業取組中間報告書

肥料価格高騰対策事業実施要領（令和3年12月20日付け3農産第2156号農林水産省農産局長通知）第14の1の規定に基づき、下記のとおり報告する。

記

取組の実施状況

取組メニュー	取組の実施状況
堆肥の利用	秋7ha 春1.9ha うち、強化・拡大により0.8ha 拡大
緑肥作物の利用	春3.5ha うち、強化・拡大により0.2ha 拡大
低成分量肥料（単肥配合を含む）の利用	春11.2ha

(注)

- 1 取組メニューには、取組実施者において取り組んでいるメニューを記入し、適宜、行を追加すること。
- 2 参加農業者が、中間期間までにどのような取組を行ったのか、また、取組前と比べてどの程度取組が進んでいるか、使用記録等を参照し記入してください。

注「中間報告」で、全ての参加農業者の取組が終了した場合、取組実施者は「実施状況報告」の取りまとめ様式についても、併せて提出してください。

【国が示した記入例】

参考様式第7号

記載例

国からの例示 (R5.8.1)

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

令和5年12月10日

□□□□□□□□協議会 〇〇〇〇 殿

所在地 □□県△△市〇〇

取組実施者名 JA◇◇◇◇

代表者氏名 〇〇〇〇

令和4年度及び5年度肥料価格高騰対策事業取組中間報告書

肥料価格高騰対策事業実施要領（令和3年12月20日付け3農産第2156号農林水産省農産局長通知）第13の規定に基づき、下記のとおり報告する。

記

取組の実施状況

取組メニュー	取組の実施状況
ア 土壌診断による施肥設計	農家への呼びかけを強化し、土壌診断の実施点数が増加傾向となっている。
イ 生育診断による施肥設計	センシングデータを用いた施肥設計に向けてIT企業と協議を開始した。
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	地域に合った低投入型肥料の銘柄を調査し、3銘柄を選定した。
エ 堆肥の利用	堆肥提供者と供給量について交渉を行っているところ。
オ 汚泥肥料の利用（下水汚泥等）	汚泥肥料を利用した試験ほ場を設置し、生育試験を実施中。
カ 食品残渣など国内資源の利用（エとオ以外）	地域内においてペレット堆肥を混合した肥料の活用を促進している。
キ 有機質肥料（指定混合肥料等を含む）の利用	特殊肥料入り指定混合肥料を栽培暦の基本施肥銘柄に設定。
ク 緑肥作物の利用	緑肥種子の購入額を一部補助することによって注文数量が増加した。
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用	〇〇〇〇（品種）を推奨品種に選定して作付拡大を図っているところ。

【国が示した記入例】

コ 低成分肥料（単肥配合を含む）の利用	〇〇〇〇（肥料銘柄）の販売量が増加傾向となっている。
サ 可変施肥機の利用（ドローンの活用等を含む）	ドローンを活用した追肥作業の試験を実施し、栽培マニュアルを作成中。
シ 局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用	3件の農家がうね立て同時施肥機を購入。
ス 育苗箱（ポット苗）施肥の利用	育苗箱専用の〇〇〇〇（肥料銘柄）の販売量が増加傾向となっている。
セ 化学肥料の使用量及びコスト低減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（ア〜スに係るものを除く。）	農家に低価格の〇〇〇〇（肥料銘柄）の紹介したところ、販売量が増加傾向となっている。
ソ 地域特認技術の利用（ ）	

（注）

- 1 取組メニューには、取組実施者において取り組んでいるメニューを記入し、適宜、行を追加すること。
- 2 参加農業者が、中間期間までにどのような取組を行ったのか、また、取組前と比べてどの程度取組が進んでいるか、使用記録を参照し記入してください。

【摘要】

国が例示した記載例の内容は、引用可能な事項があれば参考として活用すること

## ②実施状況報告書

(業務方法書 様式第11号)

記入例

( 番 号 )  
令和〇年〇月 日

山口県地域農業戦略推進協議会  
会 長 平岡 武 様

所在地 山口県〇〇市〇〇町〇〇番地  
取組実施者名 〇〇商店 (〇〇グループ)  
代表者氏名 □□ □□

### 令和5年度肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書

肥料価格高騰対策事業実施要領 (令和3年12月20日付け3農産第2156号農林水産省農産局長通知) 第13の2の規定に基づき、別添のとおり報告する。

(添付資料)

- ・実施要領参考様式第13-2号
- ・実施要領参考様式第14号
- ・その他農政局長等が必要と認める書類

## 肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書

## 第1 取組実施者名

〇〇商店 (〇〇グループ)

## 第2 事業の取組概要

参加農業者数 (件)	取組面積 (ha)
7	秋肥51 春肥 16.6

## 第3 取組実績

取組メニュー	取組の実績
ア 土壌診断による施肥設計	
イ 生育診断による施肥設計	
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	秋3.5ha
エ 堆肥の利用	秋10ha 春1.9ha うち、強化・拡大により0.8ha 拡大
オ 汚泥肥料の利用 (下水汚泥等)	
カ 食品残渣など国内資源の利用 (エとオ以外)	
キ 有機質肥料 (指定混合肥料等を含む。) の利用	秋4.5ha うち、強化・拡大により1.2ha 拡大
ク 緑肥作物の利用	春3.5ha うち、強化・拡大により0.2ha 拡大
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用	
コ 低成分肥料 (単肥配合を含む。) の利用	春11.2ha

サ 可変施肥機の利用（ドローンの活用等を含む。）	
シ 局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用	秋33ha
ス 育苗箱（ポット苗）施肥の利用	
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（ア～スに係るものを除く。）	
ソ 地域特認技術の利用 ( )	

(注) 参加農業者が、実施期間を通じてどのような取組を行ったか、また、その結果として、取組前と比べてどの程度の化学肥料の低減が図られたかを、使用記録等を参照し、できる限り定量的に記入してください。

#### 第4 化学肥料の使用量の低減に向けて継続的に取り組むための取組計画

※例 参加農業者のとりまとめ結果の概要などを記入する。

参加農業者が取り組んだ取組メニューについては各自で継続・拡大を行うこととしている。

※取組実施者としての計画の概要などを記入する。

特に、堆肥の利用については、〇〇品目において牛糞堆肥の取組実施面積が〇〇ha と多く、参加農業者の協力を得ながら取組結果を幅広く周知するなどし、その取組拡大に向けて推進を図ることとしている。



記入例

肥料価格高騰対策事業 参加農業者名簿

No.	参加農業者	取組面積 (ha)	計画時の取組メニューの実施の有無
	氏名 又は 法人・組織名		
1	肥料太郎	秋肥 3ha 春肥 1.5ha	有
2	農事組合法人A	秋肥 11ha 春肥 12ha	有
3	(株) B法人	秋肥 15ha 春肥 2.7ha	有
4	山口三郎	春肥 0.2ha	有
5	山口次郎	春肥 0.2ha	有
6	中国花子	秋肥 7ha	有
7	農事組合法人C	秋肥 15ha	有
集計	-	秋肥 51ha 春肥16.6ha	-

(注)

- 1 適宜、行を追加すること。
- 2 表中に十分に記載できない場合には、別紙で提出すること。

【国が示した記入例】

肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書（例）

第1 取組実施者名

○○○○○○○○

国からの例示（R5.8.1）

第2 事業の取組概要

参加農業者数（件）	取組面積（ha）
○○○○○	○○○○

第3 取組実績

取組メニュー	取組の実績
ア 土壌診断による施肥設計	参加農業者の約2割が前年より分析点数を増やした。その結果、りん酸や加里が過多となっていたほ場では、L型肥料への切り替え等により、成分値で概ね1割程度の低減が図られた。
イ 生育診断による施肥設計	ドローンによる水稻の葉色診断を活用する農家が20件増加し、当該農家では追肥作業をより精密に行うことで、尿素的施用量が1割～3割削減できた。
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	これまでの栽培暦を低投入型の施肥量に変更したことで、管内の農家は全て当該肥料に切り替えたため、成分値で約5%の削減につながったと推測される。
エ 堆肥の利用	堆肥の販売帳簿では、以前より販売量が150t増加している。散布量を10a当たり1tから1.5tに増やした農家では、土壌診断も行うことで、基肥を前年から半減させた事例があった。
オ 下水汚泥の利用	新しく汚泥肥料の取り扱いを開始し、本メニューを選択した農家へ販売促進を図ったところ、約500袋（1t）の購入があった。購入先の農家に使用状況を聞いたところ、根張りが良くなったとのことから、今後も継続した利用が見込まれるが、化学肥料の削減につながるかは、使用を継続してみないと分からないとのこと。
カ 食品残渣など国内資源の利用（エとオ以外）	食品残渣から堆肥を製造している業者の販売量について、参加農業者が新に購入を始めるなど、例年より2割程度増加しているとのこと。なお、購入先の農業者に使用状況を聞いたところ、初年度であったため化学肥料は削減していないとのこと、効果については今後確認が必要である。

【国が示した記入例】

<p>キ 有機質肥料（指定混合肥料等を含む。）の利用</p>	<p>鶏糞を利用した水稻の栽培暦を作成し、農家への周知を図った。これにより鶏糞の販売量は例年の1.5倍となり、栽培暦に基づけば、基肥で約3割の窒素削減が図られたことになる。</p>
<p>ク 緑肥作物の利用</p>	<p>緑肥種子の販売量が例年から約2割増加し、すき込み作業の依頼も10件増えている。すき込み作業を行った農家には、基肥の半減を提案しているところであり、当該農家では5kg/10aの窒素が削減された計算となる。</p>
<p>ケ 肥料施用量の少ない品種の利用</p>	<p>〇〇〇〇（品種）の種子の取り扱いを開始し、10件の農家が約5haで栽培を開始したところ。従来の品種からは施肥量が約1割少ない施肥体系となっていることから、同程度は使用量が削減されているものと思料。なお、地域においては新しい栽培であるため、今後は収量の安定と販売促進が重要となる。</p>
<p>コ 低成分肥料（単肥配合を含む。）の利用</p>	<p>土壌診断を行った農家に対しては、これまで主力銘柄であった〇〇〇〇（肥料銘柄）から□□□□への切り替えを推奨。その結果、〇〇〇〇の販売量は約2割減少し、□□□□は約2割増加したことから、使用量では約8%削減されたと推計。</p>
<p>サ 可変施肥機の利用（ドローンの活用等を含む。）</p>	<p>今年から水稻の葉色診断を始めた農家20件に対して、ドローンによる追肥作業も実施することで、尿素の施用量が1割～3割削減できた。</p>
<p>シ 局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用</p>	<p>うね立て同時施肥機を購入した3件の農家の施肥状況を確認したところ、約2割の基肥の削減につながっていた。</p>
<p>ス 育苗箱（ポット苗）施肥の利用</p>	<p>育苗箱専用の〇〇〇〇（肥料銘柄）の販売量が約1割増加したため、地域内の施肥体系と比較すれば、基肥・追肥で合わせて約2割の削減になったと見込まれる。</p>
<p>セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（ア～スに係るものを除く。）</p>	<p>今般の肥料価格高騰を受け、〇〇〇〇（肥料銘柄）より低価格の□□□□の取り扱いを増やしたところ、例年より販売量が約3割増加した。その価格差から、約15%のコスト節減の効果があつたと推察される。</p>
<p>ソ 地域特認技術の利用</p>	

(注) 参加農業者が、実施期間を通じてどのような取組を行ったか、また、その結果として、取組前と比べてどの程度の化学肥料の低減が図られたかを、使用記録を参照してできる限り定量的に記入してください。

## 【国が示した記入例】

### 第4 化学肥料の使用量の低減に向けて継続的に取り組むための取組計画

参加農業者においては、土壌診断結果を用いた施肥設計が継続的に行われており、今回の価格高騰を受け、より精緻な結果を求めて分析点数の増加が見られた。6年度以降に土壌診断を強化する農業者もいるため、引き続き施肥量の低減に向けた基礎の取組として推進していく。

堆肥の活用では、施肥量を増やしたい農家が多いものの、近隣の畜産農家からの供給量が限られるため、ペレット堆肥での供給も視野に入れた広域的な確保を図っていききたい。

汚泥肥料に関しては、一部農家での使用に留まっているが、国内資源として関心を持つ農家も多いことから、展示ほ場の設置による利用拡大を進めていく。

有機質肥料としては、県内の養鶏場から鶏糞の供給が十分に見込まれることから、水稻の栽培暦を作成して活用を図ったところ。その結果、水稻の収量とともに農家の反応も良く、引き続き利用したいとの意見も多いことから、安定供給に向けて養鶏場と協議していききたい。

今般の価格高騰により、農家からは適正施肥への関心とともに、国内資源を活用した肥料に注目が寄せられている。土壌診断結果に基づいたL型肥料への切り替えが進み、コスト節減を意識した低価格肥料の販売量も増加したなどことから、肥料販売業者として今後も持続的な農業に向けた施肥設計について、農家へ提案してまいりたい。

### 第5 添付資料

- 1 参考様式第5-2号（肥料価格高騰対策事業 参加農業者名簿）
- 2 参考様式第6号（化学肥料低減実施報告）
- 3 その他、地方農政局長等が必要と認める書類

#### 【摘要】

国が例示した記載例の内容は、引用可能な事項があれば参考として活用すること

③ 様式集

(業務方法書 様式第12号)

(番 号)  
令和 年 月 日

山口県地域農業戦略推進協議会  
会長 平岡 武 様

所在地  
取組実施者名  
代表者氏名

令和5年度肥料価格高騰対策事業取組中間報告書

肥料価格高騰対策事業実施要領（令和3年12月20日付け3農産第2156号農林水産省農産局長通知）第14の1規定に基づき、下記のとおり報告する。

記

取組の実施状況

取組メニュー	取組の実施状況

(注)

- 1 取組メニューには、取組実施者において取り組んでいるメニューを記入し、適宜、行を追加すること。
- 2 参加農業者が、中間期間までにどのような取組を行ったのか、また、取組前と比べてどの程度取組が進んでいるか、使用記録等を参照し記入してください。

化学肥料低減実施報告書

作付概要

作物名	作付面積 (ha)
その他	
計	

氏名 (法人・組織名)

住所

電話番号

1. 実施した取組メニューに「○」、強化・拡大したメニューに「◎」を付してください。  
 2. 「今後の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	令和4年度又は 令和5年度の取組	今後の取組
ア 土壌診断による施肥設計		
イ 生育診断による施肥設計		
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用		
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用		
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用		
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用		
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等を含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、 灌注施肥等)の利用		
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの 施肥量・肥料銘柄の見直し (ア～スに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用( )		
総取組面積	ha	ha

## 取組実績整理表

農業者名	
------	--

取組メニュー実施作物栽培管理開始日 令和 年 月 日 (ほ場準備も含む)

取組メニュー (注1)	作物名 (取組メニュー 実施面積) 【作付面積】	施用時期	肥料名	施用量合計 kg/10a
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		

取組メニューを強化・ 拡大した内容 (注4)	
---------------------------	--

注1：化学肥料低減実施報告書の取組メニュー番号（ア～ソ）を記入すること。

注2：取組メニューに関係する肥料についてはアンダーラインを記入すること。

注3：緑肥作物の利用の場合は、緑肥作物名、播種日、すき込み日を記入すること。

注4：具体的な内容を記入すること。

注5：販売先に提出する生産履歴票（JA栽培管理表 等）の活用も可。

ただし、注1～3に留意すること。

(業務方法書 様式第11号)

( 番 号 )  
令和 年 月 日

山口県地域農業戦略推進協議会  
会 長 平岡 武 様

所在地  
取組実施者名  
代表者氏名

令和5年度肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書

肥料価格高騰対策事業実施要領（令和3年12月20日付け3農産第2156号農林水産省農産局長通知）第13の2の規定に基づき、別添のとおり報告する。

(添付資料)

- ・実施要領参考様式第13-2号
- ・実施要領参考様式第14号
- ・その他農政局長等が必要と認める書類



## 肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書

## 第1 取組実施者名

--

## 第2 事業の取組概要

参加農業者数 (件)	取組面積 (ha)

## 第3 取組実績

取組メニュー	取組の実績
ア 土壌診断による施肥設計	
イ 生育診断による施肥設計	
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	
エ 堆肥の利用	
オ 汚泥肥料の利用 (下水汚泥等)	
カ 食品残渣など国内資源の利用 (エとオ以外)	
キ 有機質肥料 (指定混合肥料等を含む。) の利用	
ク 緑肥作物の利用	
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用	
コ 低成分肥料 (単肥配合を含む。) の利用	
サ 可変施肥機の利用 (ドローンの活用等を含む。)	



実施要領参考様式第13-2号

肥料価格高騰対策事業 参加農業者名簿

No.	参加農業者	取組面積 (ha)	計画時の取組メニューの実施の有無
	氏名 又は 法人・組織名		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
集計	-		-

(注)

- 1 適宜、行を追加すること。
- 2 表中に十分に記載できない場合には、別紙で提出すること。

化学肥料低減実施報告書

作付概要

作物名	作付面積 (ha)
その他	
計	

氏名(法人・組織名)

住所

電話番号

1. 実施した取組メニューに「○」、強化・拡大したメニューに「◎」を付してください。  
 2. 「今後の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	令和4年度又は令和5年度の取組	今後の取組
ア 土壌診断による施肥設計		
イ 生育診断による施肥設計		
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用		
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用		
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用		
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用		
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等を含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用		
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用( )		
総取組面積	ha	ha

## 取組実績整理表

農業者名				
取組メニュー実施作物栽培管理開始日 令和 年 月 日 (ほ場準備も含む)				
取組メニュー (注1)	作物名 (取組メニュー 実施面積) 【作付面積】	施用時期	肥料名	施用量合計 kg/10 a
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
		～		
取組メニューを強化・ 拡大した内容 (注4)				

注1：化学肥料低減実施報告書の取組メニュー番号（ア～ソ）を記入すること。

注2：取組メニューに関係する肥料についてはアンダーラインを記入すること。

注3：緑肥作物の利用の場合は、緑肥作物名、播種日、すき込み日を記入すること。

注4：具体的な内容を記入すること。

注5：販売先に提出する生産履歴票（JA栽培管理表 等）の活用も可。

ただし、注1～3に留意すること。

## IV 化学肥料低減取組メニュー別 取組例

令和4年12月16日修正版  
 山口県地域農業戦略推進協議会

取組メニュー	取組例	取組を実施した証拠書類（5年間保存）
ア 土壌診断による施肥設計	<p>土壌診断結果に基づいた施肥設計による施肥を実施する。</p> <p><b>【土壌診断の例】</b>                      民間事業者等を利用した土壌診断                      市販の簡易キットによる土壌診断</p> <p>.....</p> <p><b>施設養液栽培の場合</b>                      溶脱水分析や養液や廃液の分析等に基づく施肥を実施する。</p> <p>.....</p> <p><b>【備考】</b>                      ・土壌分析の項目は土壌診断に必要な内容とする。                      ・過去5年以内に実施した土壌分析の診断結果に基づいた施肥の実施も可能。</p>	<p>○共通書類                      ○土壌診断結果                      ※診断日が必ずわかるもの                      ○診断結果に基づき実施した施肥設計書                      ※対象作物が必ずわかるもの</p>
イ 生育診断による施肥設計	<p>作物の葉色や植物体の栄養診断結果に基づいた施肥設計による施肥を実施する。</p> <p><b>【生育診断の例】</b>                      ・水稻の葉色板カラーチャートによる計測                      ・生育状況の計測                      ・植物体中の硝酸態窒素含量の計測</p>	<p>○共通書類                      ○生育診断結果の成績書の写し（作物名、診断者、ほ場名、診断日、診断方法、診断結果、診断結果に基づく施肥量の改善内容等の記録）</p>
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	<p><b>【例】</b>                      ・J A部会等で低減を目的とした施肥設計（エコやまぐち、エコファーマー など）による施肥</p>	<p>○共通書類                      ○低投入型施肥設計（施肥暦等）                      ※新たに取り組む場合は、これまで使用していた施肥設計（施肥暦等）</p>
エ 堆肥の利用	<p>化学肥料の削減のため堆肥を施用する</p>	<p>○共通書類                      ○堆肥の購入伝票の写し                      ※自給堆肥を施用する場合は散布時写真</p>
オ 汚泥肥料の利用（下水汚泥等）	<p>下水汚泥等を原料とした肥料を施用する。</p>	<p>○汚泥肥料の購入伝票の写し</p>

カ 食品残渣 など国内資源 の利用 (エとオ 以外)	食品残渣などを原料とした肥料を施用する。 普通肥料や特殊肥料として販売されているの で、販売店等に問い合わせてください。	○共通書類 ○対象肥料の購入伝票の写し
キ 有機質肥 料 (指定混合肥 料等を含む) の 利用	有機質原料が含まれている肥料であれば対象 となります (有機質原料の含有量は問いませ ん)。 ※原料は販売店に問合せするか肥料袋に掲載 されている保証票等で確認してください	○共通書類 ○対象肥料の購入伝票の写し
ク 緑肥作物 の利用	レンゲ、ソルゴー (ソルガム)、ナギナタガヤ などの緑肥を利用	○共通書類 ○緑肥種子を購入した伝票の写 し ※取組を長い年月実施してお り、播種を実施しなくても効果 が期待できる生育量が見込める 場合は、生育状況がわかる写真
ケ 肥料施用 量の少ない品 種の利用	当該地域の基準となる品種 (参加農業者の 経営品種) の栽培暦の10aあたりの肥料施 用量と比較し、1割以上の低減 (NPK 総量ベー ス) ができる品種を利用	○対象品種の種苗の購入伝票の 写し ○取組を実施した年度 (作型) の 作付品種の一覧 (様式自由) ○取組を実施した年度 (作型) の 対象品種と基準品種の栽培暦 等 (10aあたり施用量の低 減が判断できる資料)
コ 低成分肥 料 (単肥配合を 含む) の利用	・リン酸 (P)、カリ (K) の成分の施用量を容易に減 らすことができるよう、予めこれらの成分の含有 量を減らした複合肥料 (いわゆるL型肥料) を施肥 する。 ・現在利用している肥料銘柄よりも窒素 (N)、リン 酸 (P)、カリ (K) の成分の総量が低い複合肥料を 施用する (農業者等が自ら単肥を配合したもの も含む) ※複合肥料とは、N、P、Kの3成分のうちいづれ か2成分以上を含む普通肥料。 具体的には販売店等に問い合わせください。	○共通書類 ○対象肥料の購入伝票の写し ○現在利用している肥料銘柄よ りもN、P、Kの成分の総量が低 い複合肥料を施肥する場合は、 これまで使用していた肥料銘柄 がわかるもの (NPK成分の比 較が可能なもの)
サ 可変施肥 機の利用 (ド ローンの活用等 も含む)	【例】 可変施肥田植機を利用した施肥	○共通書類 ○可変施肥機を利用している写 真

シ 局所施肥 (側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等) の利用	【例】 側条施肥、うね立て同時施肥、灌注液肥 等	○共通書類 ○局所施肥を実施している写真
ス 育苗箱(ポット苗) 施肥の利用	水稻で育苗箱全量施肥資材を利用する	○共通書類 ○対象肥料の購入伝票 ○専用機械を使用した場合は使用時の写真
セ 化学肥料の使用量及びコスト削減の観点から施肥量・肥料銘柄の見直し	※アからス以外で該当するもの	○共通書類 ○従来の施肥実績と取組メニューにより実施した施肥実績が比較できる資料 ○コスト削減の観点であれば、従来の施肥実績と取組メニューにより実施した施肥実績のコストが比較できる資料
ソ 地域特認技術	山口県では現在のところ地域特認を設定する予定はありません。	

### 重要<共通書類>

本事業を取り組む農業者の方は、上記証拠書類の他、以下の資料(記録等)を実績提出後5年間**必ず保管**してください。

○取組メニューを実施(強化・拡大も含む)した品目の**ほ場毎の施肥管理記録**

※様式は定めませんが、実施(強化・拡大を含む)した取組メニュー内容、栽培品目、ほ場名、作業日、肥料名、施用量がわかる記録)

※拡大・強化の場合は拡大・強化を行う前の記録も必要(最低限、拡大・強化した内容がわかる記録のみでも良い)

○取組メニューを実施した品目の**出荷・販売伝票**

注1：国が取組を実施した証拠書類について別に定めた場合は、内容が一部変わる可能性があります。

注2：「汚泥肥料の利用(下水汚泥等)」、「肥料使用量の少ない品種の利用」は記載を省略していますが、取組は可能です。



別紙1 取組メニュー別 証拠書類（5年間必ず保管する書類）

区 分	証 拠 書 類 の 内 容
共通 ※「取組の中間報告」、 「実施状況報告」に添付 は不要	○取組メニューを実施（強化・拡大も含む）した品目のほ場毎の 施肥管理記録（様式は定めないが、実施（強化・拡大を含む） した取組メニュー内容、栽培品目、ほ場名もしくは番号、作業 日、肥料名、施用量が必ずわかる記録） ※拡大強化の場合は前年度の内容も必要 ○取組メニューを実施した品目の出荷・販売伝票 ○その他申請時から変更が生じた事由が確認できる書類
土壌診断に基づく施肥 設計	○土壌診断結果（事業年の5年前までに実施されたものも可） の写し ※診断日が必ずわかるもの ○診断結果に基づき実施した施肥設計書 ※対象作物が必ずわかるもの
作物の生育診断に基づ く効率的施肥	○生育診断結果の成績書の写し （作物名、診断者、ほ場名、診断日、診断方法、診断結果、診 断結果に基づく施肥量の改善内容等の記録）
地域の低投入型の施肥 設計の導入	○導入した低投入型施肥暦 ○新たに取組む場合はこれまで使用していた施肥暦
堆肥の利用	○堆肥の購入伝票の写し ※自給堆肥を施用する場合は散布時写真
汚泥肥料の利用（下水汚 泥等）	○汚泥肥料の購入伝票の写し
食品残渣など国内資源 の利用（堆肥、汚泥肥料 以外）	○対象肥料の購入伝票の写し
有機質肥料（指定混合肥 料等を含む）の利用	○有機質肥料の購入伝票の写し
緑肥作物の利用	○緑肥種子を購入した伝票の写し ※取組を長年実施しており、播種を実施しなくても効果が期待で ける生育量が見込める場合は、生育状況がわかる写真
肥料施用量の少ない品 種の利用	○対象品種の種苗の購入伝票の写し ○取組を実施した年度（作型）の作付品種の一覧（様式は自由） ○取組を実施した年度（作型）の対象品種と基準品種の栽培暦等 （10aあたりの施用量の低減が判断できる資料）

<p>低成分肥料(単肥配合を含む)の利用</p>	<p>○低成分肥料の購入伝票の写し  ※自ら単肥配合した場合は、配合した肥料を購入した伝票の写し  ○新たに取組む場合は、これまで使用していた肥料銘柄がわかるもの(NPK成分の比較が可能なもの)  ※単肥配合の場合は、配合したNPK成分の比較が可能なもの</p>
<p>可変施肥機の利用</p>	<p>○可変施肥機を利用している写真  ※リースもしくは作業委託の場合は契約書の写しも添付</p>
<p>局所施肥の利用</p>	<p>○局所施肥を実施している写真  ※リースもしくは作業委託の場合は契約書の写しも添付</p>
<p>育苗箱(ポット苗)施肥</p>	<p>○育苗箱施肥に利用した肥料の購入伝票の写し  ○専用機械を使用した場合は使用時の写真</p>
<p>化学肥料の使用量及びコスト削減の観点から施肥量・肥料銘柄の見直し</p>	<p>○従来 of 施肥実績と取組メニューにより実施した施肥実績が比較できる資料 ※10aあたり  ○コスト削減の観点であれば、従来 of 施肥実績と取組メニューにより実施した施肥実績のコストが比較わかる資料  ※NPK 成分量総量の 10a 当たりコスト</p>
<p>実施計画の申請時に既に全作付面積の半分以上を占める作物において化学肥料の低減に相当程度の実績がある旨申請した者</p>	<p>計画申請翌年の以下の資料の写し  ○エコやまぐち農産物認証取得者  エコやまぐち農産物生産認証通知  ○有機JAS認証取得者  有機JAS認証票  (取得した作物名が認証票に記載されていない場合は、認証を取得した作物名がわかる書類)  ○環境保全型農業直接支払交付金受給者  所属する農業者団体が市町に提出した「営農活動実績報告書」もしくは「実施状況報告書」の写し  ※実施状況報告書の場合は、市町が農業者団体に通知した「環境保全型農業直接支払交付金に係る実施状況確認結果通知書」の写しも併せて添付する</p>